

令和7年度第2回向日市障害者計画策定委員会 会議録

- 1 日 時 令和8年1月29日(木) 午後1時30分から3時30分まで
- 2 場 所 向日市福祉会館 大会議室
- 3 出席者 (委員) 14名
田村委員長、大橋委員、山本委員、増田委員、河嶋委員、井上委員、梅垣委員、小林委員、山田委員、岡田委員、奥野委員、和田委員、大塚委員、太田委員
(事務局) 6名
向日市市民サービス部柴田部長、伊藤副部長、向日市市民サービス部障がい者支援課熊上担当課長、谷澤主席係長、山田担当係長、中田主査
(傍聴者) なし
- 4 内容
 - (1) 開会
 - (2) 議事
 - ア 第4次向日市障がい者計画、第8期向日市障がい福祉計画及び第4期向日市障がい児福祉計画策定に係る障がい者実態把握調査結果について
 - イ 第3次向日市障がい者計画、第7期向日市障がい福祉計画及び第3期向日市障がい児福祉計画の進捗状況について

【概要】

(1) 開会

(2) 議事 ア 第4次向日市障がい者計画、第8期向日市障がい福祉計画及び第4期向日市障がい児福祉計画策定に係る障がい者実態把握調査結果について

事務局から、第4次向日市障がい者計画、第8期向日市障がい福祉計画及び第4期向日市障がい児福祉計画に係る障がい者実態把握調査について、結果を報告した。

- <委員> 81ページの、事業所が現在提供しているサービスで、重度障害者等包括支援が0.9%となっている。乙訓圏域には提供している事業者は存在しないと思うがなぜか。
- <事務局> 乙訓圏域以外の事業所にも調査票を送付している。重度障害者等包括支援のサービスを提供している事業所から回答いただいたもの。
- <委員> 災害時の避難先の問いで、自宅で過ごしたいという回答が多かったが、災害時においても環境を変えることなくいつもと同じ生活を望むから自宅で過ごしたい方が多い、ということではなく、避難所の環境が悪いから行けないのだと思う。
- <委員長> 避難所自体の評価については質問項目がないため分からないが、避難所が嫌だから行かないということはあると思うので、避難所の環境整備について検討することは必要だと考えられる。
- <委員> 40ページの避難行動用支援者名簿について、名前も内容も知らないという回答があるが、周知や啓発について方向性や、具体的な考えはあるか。
- <事務局> 避難行動要支援者名簿の対象者は、例えば、要介護4、5の方、身体障がいの肢体1級、視覚障害の1級、療育手帳のA判定を持っておられる方など、一部の方に限定される。対象者には避難行動要支援者名簿の案内と、関係機関への情報提供の同意書を個別に送付している。
今回のアンケートは、対象外の方にも広く送付したため認知度についてこういった結果となったと思われる。
毎年対象者を抽出し、前回未回答の方を含め個別に郵送で案内しており、今後も実施していく。
- <委員> 手帳所持者を対象にアンケートを送付され、回答率が47%、41%などがあるが、年齢別や障がい種別によって回答率の偏りはないか。
- <事務局> 手元に詳細資料がないため正確にはお答えできないが、市内の対象者に対して無作為に送付した結果であり、おおよそ集計結果と同等の割合で回答があり、年代や障がい種別によって回答率に大きな偏りはないのではと考える。

- <委員> 84ページの事業所への質問で、来年度の実施予定サービスで定員3名の短期入所施設が2箇所とあるが、地域生活支援拠点の2箇所という意味か、それとは別に短期入所を2箇所つくるということか。共同生活援助のうち1箇所の5.5人とはどのような内容か。
- <事務局> 短期入所を長岡京市で開設する予定であるという、各事業所からの回答を報告したもの。地域生活支援拠点のことではない。共同生活援助の5.5人は、事業所からの回答となる。
- <委員> 1ページの、調査票の配布数が1,827件とあるが、18歳以上の方全員に配布したのか。また、回答率が47.1%と、半分以上の方から回答が返ってきていないことになる。本当に助けが必要な障がいの程度が重い人からの回答が返ってきていないということはないのか。その辺を調査した方がよいのではないか。
- <事務局> 全員ではなく、無作為抽出により1,827件配布したもの。無記名のアンケートのため、無回答の方の調査は難しい。ただ、本市では他のアンケートなどでウェブによるアンケートも実施している。アンケートの自由記述にもウェブアンケートを希望する意見もあったため、今後柔軟に検討したい。
- <委員長> 今回の紙によるアンケートのとり方だと、回答に偏りがあるのではという意見。次回の実態調査の取り方は検討を行っていただきたい。

イ 第3次向日市障がい者計画、第7期向日市障がい福祉計画及び第3期向日市障がい児福祉計画の進捗状況について

事務局から、第3次向日市障がい者計画、第7期向日市障がい福祉計画及び第3期向日市障がい児福祉計画の進捗状況を報告した。

- <委員> 評価について、達成したという判断を何をもって誰がしているのか。また、達成、一部達成、未達成の3段階で評価しなければいけないのか。頑張ってくれていることは評価はするが、サービスを受ける側の評価ではない上、残っている課題が書かれずに、単純に達成と表現されることに対して違和感がある方もいるように思う。達成という表現だけではなく課題もわかるように書く方が当事者達の理解も得られやすいのではないか。建設的に評価できるようにもう少し細かい課題などと共に評価した方がよいのではないか。
- <事務局> 各担当課にて、障害者計画で掲げた施策に対して取組んだ内容について評価したもの。評価理由の記載と共に3段階で評価を行なっている。

- <委員長> この評価方法でよいかどうかは事務局で検討いただきたい。
推進してきた内容が現計画で達成したから終わりではなく、次期計画に繋がった形で継続されることが望ましい。支援計画などはそうになっていると思われるが、施策についても同じように、計画に基づき実施しながら質や量など項目毎に課題をあげ、次期計画に反映させるなど継続して実施していることや、中身が分かるようにしていただきたい。
- <委員> 資料2、7ページの、2(2)①一般就労を推進するための体制整備の令和7年度の取り組みの内容について、乙訓障害者就労支援ネットワーク「たけのこ」が令和7年10月に一般就労の促進に向けた学習会を実施とあるが、5月ではないかと思う。確認の上修正いただきたい。
また、自立支援協議会の就労支援部会と、就労支援ネットワーク「たけのこ」は別の組織である。就労部会のネットワークではないため表記を改めていただきたい。
- <事務局> 確認の上訂正する。
- <委員> 13ページの相談支援に関して、計画相談の作成率が100%で達成となっているが、福祉計画の進捗状況では120%となっている。計画相談事業所が不足している状況であり、圏域外の事業者を利用していることと思われる。今後、圏域内でどうしていくか考えていただきたい。
- <委員長> 計画としては達成はしているが、事業所は不足しているということ、どこかに記録しておくことはできるのか。
- <事務局> 調査票には記載項目はないが、この会議の議事録として残すこととなる。
- <委員> 相談支援達成率が100%とあるが、圏域の事業所が利用出来ず他市の事業所を探した方の話も聞いている。
障がい福祉サービスを受けるには支援計画が必要であるため実績は100%になると思うが、圏域での実情を考えると疑問に感じる部分がある。
また、15ページ目の避難行動要支援者名簿について、令和7年第1回会議では、運用について議論があったと思うが、達成という結果について具体例をもって、個別避難計画も含め説明いただきたい。
- <事務局> 前回の会議においても避難行動要支援者名簿について説明したが、災害時の危険度が高い方に対して案内をしていること自体は7月時点と変わっていない。
対象者の方には、関係機関に対して平時の見守りのために情報提供してよいかという同意書を送付しているが、毎年度抽出作業を行ない前回回答をいただかなかった方も対象に含めて送付している。
個別避難計画に関しては、郵送や、民生委員による戸別訪問など様々なやり方があるが、本市では、個別避難計画をスムーズに作成するための検証も含め、対象者を災害時の危険度の高い地域に住んでいる方に絞った上で個別に

連絡を取り、丁寧に個別避難計画の作成を実施している。
具体的には、災害マップから水害の危険度が高いところに住んでいる方で、重度の障害をお持ちの方を抽出し、個別に電話等で連絡をとるなどして個別避難計画を作成している。
昨年度は実績がなかったが、今年度は2名の個別避難計画の作成が完了した。更に今年度末に向けて対象者の方に連絡し、個別に避難計画を作るため事業を進めている。
前回の会議での議論では、対象者の抽出の方法も含めて質問をいただいていたかと思うため、補足させていただいた。

<委員長> 要支援者名簿についても、個別避難計画についても、個別にあたって、何度もトライしながら、了解をもらい、名簿への登録や、計画を作るということを粘り強くやっていく、ということだと思います。

<委員> 資料2の1ページ目について、京都府や障害者団体が行う啓発活動に協力すると記載のあることについて。
障がい者協会の会員が高齢化してきており、啓発物品の運搬が大変になっている。
以前に、そのことを市に相談したところ、その翌年から市から協力していただけるようになり、とても助かっている。今後またいろいろと協力いただきたい。

<委員長> 今困っていることについて対応していただいて感謝しているということかと思う。
高齢障がい者の課題についても今後議論、検討が必要かもしれない。

<事務局> たくさん貴重なご意見をいただきとてもありがたい。
障がい者計画の実績に対する表現について、市民の立場に立って考えればどのような印象となるかがわかる。これらの項目は、平成29年の計画策定時に目標として具体的に設定したものであり、その実績を原課で回答している。来年度の次期計画策定の際には、これらの項目の挙げ方自体も検討し、よりよい計画となるよう皆様と一緒に取組んでいきたい。

<委員長> 国においても、障害者計画、障害福祉計画及び障害児計画に係る基本指針の見直しが行なわれたところだと思われる。追加ポイントもあるため、適切に市の計画を検討されたい。

(事務局から今後のスケジュールについて説明)